

【大泉町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

本町では、「大泉町 みらい創造羅針盤 ～大泉町総合計画 2019～」において、「未来へつなぐ 魅力あふれるまちづくり」を基本理念としている。また、大泉町教育大綱では、「夢とやさしさをもって、生き生きと学ぶまち」を基本方針としている。

令和6年度教育行政方針の中で、重点施策の一つとしてICT教育の推進を掲げ、変化が激しく、多様化する社会を、広い視野でたくましく生き抜き、地域の未来を担っていくために、子どもたちが誰一人取り残されることなく、共に生き生きと学ぶ教育の実現を目指していく。

2. GIGA第1期の総括

国のGIGAスクール構想を受け、本町では、令和3年度までに小中学校7校の児童生徒に対し、計3300台の1人1台端末の整備を完了するとともに、高速通信ネットワークや無線LAN環境の整備を行い、ICTを基盤とした新たな学びの確立を進めてきた。

令和4年度には、町内中学校1校が群馬県教育委員会による「ICT活用促進プロジェクト」のモデル校として公開授業や実践発表を行い、1人1台端末を活用した授業を推進してきた。

また、町内小中学校の教職員で構成される大泉町教育研究所のICT活用研究班では、1人1台端末の活用方法や授業での生かし方などを研修し、その成果を学校で共有した。

授業での1人1台端末の効果をより一層上げるため、令和6年度に全普通教室に電子黒板を整備し、GIGA第2期にわたり活用できる体制を整えた。

3. 1人1台端末の利活用方策

GIGA第1期でのICT環境整備や利活用促進により、1人1台端末は、児童生徒にとって日常的に必要なツールとなった。令和8年度には1人1台端末を更新し、児童生徒の学びを止めない環境整備を進めていく。

また、学習履歴データやデジタル学習教材を活用した個別最適な学びと、各種アプリケーションを使った意見共有や比較検討などによる協働的な学びを推進することで、1人1台端末を活用した主体的・対話的で深い学びを実践していく。

さらに、専門業者によるICT支援業務を継続し教職員の資質を高めていく。また、1人1台端末の家庭への持ち帰りを発達段階に応じて実施するとともに、情報モラル教育の充実を図り、家庭学習や保護者との連携を強化する。